

令和元年度 第 50 回東海北陸社会教育研究大会 三重大会開催される！

～ 大会スローガン ～ つながる∞つなげる社会教育の力

10月10日～11日、津市の三重県総合文化センターにおいて＜研究主題＞だれもが参加したい社会教育の推進と題して、「第50回東海北陸社会教育研究大会」が盛大に開催されました。

鈴鹿からは7名の社会教育委員が参加し、熱心に研究協議を行い、研鑽を深めました。

1日目は、「今こそ問い直す社会教育の意義～つながる∞つなげる社会教育の力～」をテーマに、鈴木真理さん（まこと〔一社〕全国社会教育委員連合会長）と長島りょうがんさん（三重県社会教育委員連絡協議会副会長）による記念トークライブがありました。ダジャレを交えながらの楽しいトークライブでは、「社会教育とは」を考える際、大上段に構えることなく、地域の中にある課題に対し、自分がどうしたいのかを考え、地道に向き合っていくことが大切であるという言葉が印象的でした。

2日目は、「家庭教育支援」、「青少年の健全育成」、「地域文化の振興」、「地域の活性化」、「社会教育委員の役割と課題」の5つの分科会があり、三重県はすべての分科会で話題提供者となり実り多き大会となりました。



分科会の様子

第2分科会

青少年の健全育成

まず、名古屋市子ども青少年局青少年家庭課の社会教育主事から「青少年の力を生かしたまちづくりに貢献！」と題して話題提供がありました。名古屋市青少年プラザ事業の一環で、青少年が様々な立場の人と地区の現状や未来について対話し、「まちすぐろく」を作り、商店街の夏祭りでブース出展をしました。青少年にとって、自分たちの取組を多くの人たちに伝えることができ、満足感の得られる活動となり、青少年の自尊感情を育てる良い取組でした。

次に、いなべ市の社会教育委員から「放課後子ども教室ほくせいの取り組みとあゆみ～体験は宝、宝物は一生の財産に！～」と題して話題提供がありました。各教室を運営する中で教室の講師同志のつながりを大切にされていて、講師会議の開催や地域への報告会も開催されるなど熱心に活動されています。

また、幼少期の体験はのちの生き方に関わる大切なものであるため、教室を維持・拡大していくことの重要性を訴えておられました。

第5分科会

社会教育委員の役割と課題

まず、石川県能美郡川北町の社会教育委員から、「小さいからこそできる川北町を好きになる子どもづくり～かわきたの明日の子どもを育てる町民会議の取り組み～」と題して話題提供がありました。学校や地域、町と連携して子どもたちの「地元愛」を育むことにより「自分たちが何とかしたい」という機運に発展させる狙いを持って取り組んでおられ、社会教育による学びの仕掛けが見られました。

次に、わが鈴鹿市の井上哲雄委員が、「社会教育委員の活動活性化への試み～鈴鹿市社会教育委員としての活動を通して～」と題して発表を行いました。

参加者からは、『社会教育委員として同じ悩みを持っている』『公民館との関わりについて知りたい』『鈴鹿の社会教育委員だよりの“きらり”は参考になった』などの質問や感想が寄せられました。



続いて、15のグループに分かれて、「きらり」第4号で紹介した『えんたくん』を使ってグループ討議を行いました。あるグループでは、「誰もが参加したい社会教育とは？」に対して、『みんなが活動に参加する必要はないのではないか、生きがいを見つける機会づくりになればよい。ただ社会教育委員の認知度が低い。一市民としての意見を言うべき。』『社会教育委員は意見を言うのが役割』『変人・奇人、人と違う意見を言う人を大切にしないと変わらない。自ら動かないといけない。』『活動する場を提供するのが社会教育だ』などの意見が出されました。

これまでの大会とは異なり、小グループで意見交換や情報交換が行われたことで、他市町との交流をより一層深めることができました。



編集 鈴鹿市社会教育委員の会

発行 鈴鹿市文化スポーツ部文化振興課

電話 382-7619

★鈴鹿市のホームページでもご覧ください ⇒

きらり 検索